

色とりどりの小さな手まり

「ロンと愛らっつ
手まりに夢中

子どもの頃から、手芸が好きだった福山さん。5年前、小学生だった娘と一緒に挑戦できるものと初めて作った「手まり」のかわいさに心を奪われ、夢中で制作に没頭し、気が付けばその作品数は数百にもなっていました。

「手まりは、針と糸さえあれば、いつでもどこでも作れます」と福山さんは話します。

昔から遊具として親しまれてきた手まりは、各地で作りが伝承されており、素材や大きさ、模様などさまざま。その複雑で幾何学的な模様的美しさから伝統工芸品としても注目されています。福山さんの作品は、心材に綿、糸は絹糸を使い、小ぶりで色とりどりの愛らしい手まりです。

趣味として手まり制作にいらそしんでいた福山さんですが、令和4年1月、熊本日日新聞社主催の「くまもとハンドメイド大賞」に腕試しで出品しました。すると、まさかのグ

ランプリ・熊日賞を受賞！
「作品を見た人の感想もらえたのもすごくうれしくて、自分の作品をもっと見てもらいたい、手まりの魅力を伝える一人になりたいと思うきっかけになりました」

手まりで広がる世界

自作の手まりをインスタグラムで公開したところ、イタリアや東欧など、海外の人からもメッセージが届きました。「手まりを愛する人が世界中にいることに驚きと喜びを感じました」

令和5年8月11日に復興まちづくりセンターにじいろで開催された「にじいろ夜市」では、手まりクリエイター「十森」として初めて出展。

「これから、日本中の手まりを見て回って、もっと研究して、手まりの良さをたくさんの人に知ってもらえる活動に挑戦していきたいです」

下段写真左から／福山さんが制作した手まり。一つ一つ個性があります／親指より小さい手まり(本人提供)／にじいろ夜市に出展した様子(本人提供)

十森さんのインスタグラムを手エック!

